

学力向上に向けた取組



授業研究は財産づくり

“授業の質の向上は、求め続ける永遠の課題”

昨年度から、やまぐち総合教育支援センターの専門研修として、「学力向上に向けた全校体制で取り組む校内研修の充実を図る研修講座」が開設されています。

この講座では、研修主任の先生方を対象に、学力向上に向けて全校体制での校内研修を充実するため、授業評価や授業検討を生かした授業改善を進めるための実践的な研修を行っています。今年度は、小・中学校あわせて70校の先生方が参加しています。

今回は、これまでに取り組んできた効果的なワークショップ型の校内研修を紹介します。

“KJ法を用いた全員参加による授業研究”

KJ法は、文化人類学者の川喜田二郎氏が考案した手法です。授業研究に取り入れ、右のような特色を生かして進めると効果的です。

研修主任等が、研究協力の持ち方を説明し、全員の共通理解のもと、校内研修を実施します。

《特色》

- ・視覚に訴えることで、課題を共有できる
- ・自由な雰囲気の中で実施でき、参加者の意識が高まり、協議への満足感が得られる
- ・自由で創造的な意見等を生かしやすい
- ・少数の意見を尊重できる

・視点の明確化

①研究の視点、授業者の意図を明確にする

・授業参観

②授業公開・授業参観

・付箋へ記録

③成果や課題など、客観的な事実に基づいて色分けした付箋に記録する

・整理、分析

④付箋に記録したことを説明しながら、概念化シート等に貼り付け、グループ分けして見出しを付け、分類整理する



・共通実践事項の具体化

⑤整理した課題に対する改善策等アイデアを出し合い、共通実践事項について話し合う

・授業改善

⑥話し合った取組をもとに、授業を改善

様々なワークショップ

・学習過程に沿って

・4つのエリアで

・改善策をまとめる

・共通実践に

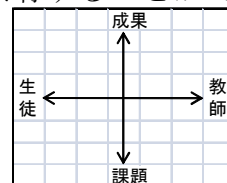
研究成果は、授業改善を実践することで、児童生徒の姿から明らかになります。

授業評価の活用

ワークショップ型校内研修には、学校の取組の実態や目的に応じた様々な手法があります。

○拡大指導案の活用

授業実践の課題を付箋に書き、拡大指導案上に貼っていきます。学習過程に沿って成果と課題を見直し、改善案を出し合います。改善案をもとに修正指導案を作成することで、授業改善の視点を共有することができます。



○概念化シートの活用

ワークシートの縦横軸を2つのベクトルで4つのエリアに分割します。付箋に記した成果や課題を、分類して貼り付け、整理していきます。KJ法を用いてグループ化やタイトルを付けることにより因果関係を明らかにすることができます。

○マトリックスの活用

研究授業等で、課題解決のアイデアを考えていくときに有効な手法です。テーマに沿って成果と課題を出し合い、課題改善に向けた取組を話し合うため、実践化が進みます。

視点	話すこと・聞くこと	その他
成果		
課題		
改善策		

○アイデア三角形の活用

一人ひとりが課題解決のアイデアを付箋に書き、その後、付箋をアイデア三角形の底辺付近に貼り付けます。アイデアを実践的な取組として高めていく場合の課題を話し合い、全校で共通実践事項を定めるなど共通理解を図る場合に有効な手法です。



“授業評価を研究協議に生かす”

児童生徒や教師による4段階の授業評価を実施して、評価項目ごとに集計し、児童生徒の評価と教師による評価を比較します。教師の思いや取組と児童生徒の受け止めの間にずれがある場合、課題を焦点化できます。継続して授業評価を行うと、指導の工夫に対する子どもたちの受け止め方の変化が見えてきます。

授業評価		子ども	教師
関心・意欲	進んで学習に取り組めた	3.4	3.3
課題設定	もっとやりたいと思う授業だった	2.2	2.5
	何を学習するかよくわかった	3.0	2.8

お知らせ

やまぐち学習支援プログラムが充実！

やまぐち学習支援プログラムの内容がさらに充実しました。活用する力を高める教材や問題、学期末や単元・領域ごとに定着を確かめることができる評価問題に加え、学習内容の定着を図り、自主学習にも使える

やまぐち学習支援プログラム学習パッケージ

学習教材・問題（指導のポイント）
小3～中3国語、算数・数学
460
基本問題学習プリント
小1～小6 488

小中学校教員、
指導主事が開発

評価問題
小3～中3国語、算数・数学学
期末評価問題 42
国語領域別評価問題 140
算数・数学単元評価問題 77(予定)

「基本問題学習プリント」が揃いました。ますます積極的な活用をお願いします。

(<https://shien.ysn21.jp/gakushi/>)